1. 緒言

前報により、Inconel718 鑄造合金のレーザ溶接においては、ポロシティおよび溶接割れが問題となることがわかった。本報では、HAZに発生した溶接割れに及ぼす結晶粒径および均質化熱処理の影響について調査した。また、Inconel718 鑄造合金の溶接割れ感受性に及ぼす生成相の影響について検討を行った。

2. 供試材料および実験方法

第1報で用いた供試材と同じ化学組成を有する結晶粒径が異なるInconel718 鑄造合金の鑄放し材および均質化熱処理材を供試材として用いた²⁾。レーザ溶接部の割れ有無は各ビードの中央30mmの間で10mm間隔で切断し、6断面について調査した。また、レーザ溶接時、HAZに発生した粒界液化現象を再現するため、5×5×5mmの試料を高周波誘導加熱装置によりAr雰囲気中で、各ピーク温度まで50K/secの加熱速度で急速加熱を行い、ピーク温度で5sec保持し、その後水冷により急冷した材料を用いて調査した。

3. 実験結果および考察

3.1 割れ発生位置

溶接割れの発生位置を明確するため、Fig.1に示したごとく、ビード断面を4領域に分けて、割れの発生状況を調査した。その結果、Region IIの領域において多く発生し、特にネックのくびれ部に集中して発生することがわかった。一方、HAZにおける液化割れとHAZにおける粒界の液化した領域幅との関係を明らかにするため、Fig.2に示すような液化した粒界が見られる領域の溶融境界線からの幅を測定し、割れ長さと比較した。Fig.3はビード断面の各領域において、平均割れ長さと粒界液化領域幅との関係を示したものである。Region IIにおいて粒界液化領域幅が最も広くなる傾向が認められた。また、割れ平均長さはほぼ粒界領域幅に一致していることがわかる。以上のことから、HAZの割れは粒界液化現象が密接に関与していることがわかった。

3.2 割れ感受性に及ぼす結晶粒径および均質化熱処理の影響

Fig.4は溶接割れが比較的多く発生された溶接条件であるレーザ出力4.5kW、溶接速度3.0m/minにおいて総割れ長さを測定した結果である。この図より、結晶粒微細化および

Fig.1 Definition of region in the cross section of weld bead

Fig.2 SEM structure of liquified grain boundary

均質化熱処理により総割れ長さが減少し、高温割れ感受性が改善されることがわかる。

3.3 割れ感受性に及ぼす生成相の影響

Inconel718 鋳造合金では、鋳造時の凝固偏析、粗大な結晶粒および NbC や Laves 相の存在のため、鍛造合金より高温割れ感受性が高くなることが報告されているが、その原因の詳細については未解明な点が多い³⁾。そこで、鋳造合金の高温割れ感受性に及ぼす生成相の影響を明確するため、高周波誘導加熱装置により、HAZ 部を再現し、液化開始温度および粒界液化状況の検討を行った。鋳放し材について、液化開始温度を測定した結果を Fig.5 に示す。

これより、鋳放し材 A について、Laves 相が主たる構成相となっている Laves

cluster の液化開始温度は NbC に比べて約 30K 程度低いことがわかる。また、鋳放し材 A および C についての結晶粒の相違により液化開始温度は約 20K の差があった。このように結晶粒径の相違により液化開始温度の差があるのは、低融点金属である S, P 等の粒界偏析の差異に起因するものと推察される。以上の結果から、Inconel718 鋳造合金の HAZ の割れは、NbC より低温度で液化する Laves cluster の液化が主たる原因となることがわかった。

4. 参考文献

- 1) 西本, 禹, 田中, 白井: 溶接学会全国大会講演概要, 62(1998), 投稿中
- 2) 西本, 禹, 田中, 白井: 溶接学会全国大会講演概要, 61(1997), P.394
- 3) Xiao et al: Metallurgical and Materials Transaction A, vol.27A, (1996), P.785

Fig.4 Effect of grain size and heat treatment on cumulative length of cracks

Fig.3 Distribution of crack and liquified grain boundary at HAZ

Fig.5 Effect of grain size on the liquation temperature of Laves cluster and NbC